MUSEUM NEWS

2020.6 ► 2020.7

この誌面の情報は５月１３日時点のものです。
新型コロナウイルス拡散防止の観点から、記載されている展覧会やイベントについて、延期や中止などの措置をとる可能性があります。
来館等の際は、事前に当館ホームページをご確認ください。

New Photographic Objects 写真と映像の物質性

とき・再開館～9/6(日)
※　当初予定会期を延長して開催します。
ところ・２階展示室
出品作家・迫鉄平、滝沢広、Nerhol、牧野貴、横田大輔
内容・現代の写真や映像という表現形態は、新しいテクノロジーから伝統的な手法までを複合的に駆使した意欲的な表現が次々に生まれるスリリングな領域です。この展覧会で紹介する４名と１組のアーティストは、メディアの物質性を重視した独自のアプローチによって、この分野に新機軸を打ち出しています。彼らの作品を「新しい写真的なオブジェクト」ととらえ、今日の写真表現・映像表現の可能性を探ります。
観覧料・一般 1100 円（880 円）、大高生 880 円（710 円）
※　(　) 内は 20 名以上の団体料金。中学生以下と障害者手帳をご提示の方 (付き添い１名を含む) は無料。併せてMOMASコレクションもご覧いただけます。

《特設ページについて》
臨時休館継続のため、予定通りの展示設営が完了しているにもかかわらず公開できていない本展ですが、その内容や会場の様子をご自宅でご覧いただける特設ページを当館ウェブサイトに公開する準備を進めています。
特設ページでは、展示室内の様子を動画や写真で紹介するほか、各作家にご協力いただいたコンテンツを随時追加する予定です。
「物質性」をテーマに掲げた展示を直にご覧いただけない状況はとても歯痒く、また大変申し訳なく思いますが、作家たちとアイデアを出し合いながら、オンラインで伝えられることを考え発信していければと思います。(O.I.)

MOMAS コレクション (収蔵品展)

2020 年度 第 1 期
とき・再開館～7/12（日）/ **ところ**・１階展示室
観覧料・一般 200 円 (120 円)、大高生 100 円 (60 円)
※　(　) 内は 20 名以上の団体料金。中学生以下と障害者手帳をご提示の方 (付き添い１名を含む) は無料。

◇セレクション
印象派の画家オーギュスト・ルノワールなどの西洋近代絵画に、日本近代絵画を交えてコレクションを紹介します。

◇特集：斎藤与里
個性的な画風を追究し、美術評論でも足跡を残した加須市出身の洋画家・斎藤与里（1885−1959)。当館のコレクションを中心に紹介し、多面的な画業をひもときます。

◇写真という欲望
フォトグラムやコラージュ、絵画、資料などから､「写真」というメディアを多層的に読み解きます。

オーギュスト・ルノワール《三人の浴女》1917～19 年

斎藤与里《朝》1915 年

2020 年度 第 2 期
とき・7/18（土)～10/18（日）/ **ところ**・１階展示室
観覧料・第１期の観覧料と同一です。

◇セレクション
ジョルジュ・ルオー«横向きのピエロ»ほか、MOMAS コレクションの名品を紹介します。

◇異界／異形のコスモロジー
もうひとつの世界なのか、それとも現実なのか。異界／異形と芸術表現の関係を探ります。

2020 年 6～7 月 延期又は中止する展覧会等

６～７月に開催を予定していた展覧会・イベント等の延期又は中止をお知らせします。

《延期する展覧会》
◆企画展「コレクション　４つの水紋」
当初予定会期　7/4(土) ～ 9/6 (日)
延期後の会期　未定
◆アーティスト・プロジェクト＃2.05　スクリプカリウ落合安奈
当初予定会期　7/18(土) ～ 10/18(日)
延期後の会期　未定

《中止するイベント》
◆美術館サポーターによる作品ガイド
6～7 月の実施を中止します。(再開時期未定)
◆サンデー・トーク
6～7 月の実施を中止します。(再開時期未定)
◆MOMAS のとびら
6～7 月の実施を中止します。(再開時期未定)
なお、「MOMAS のとびら」の夏休み拡大版「サマー・アドベンチャー」は、今年度の実施を中止します。
◆夏休み MOMAS ステーション
今年度の実施を中止します。

一般展示室 (地階)

※　日程・内容は変更される場合があります。最新の情報は各主催者へお問い合わせください。
※　展示により開室時間（特に最終日の終了時刻）が異なります。

◆6/24(水) ～ 6/28(日)
第 39 回埼玉県高等学校写真連盟写真展……一般展示室 1
和洋悠久の軌跡作品展……一般展示室 4
◆6/30(火) ～ 7/5(日)
Circle Fusion・小野正弘展……一般展示室 4
◆7/7(火) ～ 7/12(日)
２０２０埼玉モダンアート作品展……一般展示室 2、3
◆7/14(火) ～ 7/19(日)
第 27 回基の会展……一般展示室 2
第 32 回白の会洋画展……一般展示室 3
◆7/21(火) ～ 7/26(日)
第 47 回埼玉二紀展……一般展示室 1 ～ 4
◆7/28(火) ～ 8/2(日)
第 30 回旺玄会埼玉支部展……一般展示室 3、4

美術館サポーターの新メンバーを紹介します！

ＭＯＭＡＳコレクション展示室では、毎日午後２時から当館の美術館サポーター（ガイド・ボランティア）による作品解説ガイドを行っています。そのスタッフに今年度から新しい仲間が９名加わりました。

美術館サポーターの認定に向けた研修の様子

石月さん、黒川さん、斉藤さん、丸山さん、宮川さんは、当館の子供向け鑑賞ツアーやワークショップでもスタッフとして活動。髙橋さんは芸術学を学び、渡辺さんは当館企画展示室でお客様の対応もしていて知識豊富。赤井さんは他館でもガイド・ボランティアを経験。塚原さんはお子さんの通う幼稚園・小学校でのＰＴＡ役員経験を生かした朗らかな語り口。そして皆さん「ＭＯＭＡＳ愛」にあふれる方々です！
新型コロナウイルス感染症対策のため、当面の間はガイドが中止となっていますが、現在、新メンバーを含む３８名のサポーターがガイドに向けて備えています。作品について語り合ったり背景を知ったりすることで、楽しさがさらに広がるのではないでしょうか。美術館を存分に楽しめる日が戻りましたら、午後２時、ぜひ展示室にお越しください。(Y.R.)

MOMAS コレクション第 2 期 異界／異形のコスモロジー

平日は電車で通勤し、週末は繁華街で買物や会食を楽しんだり､美術展に出かけたりする･･･。当たり前だったはずの日常が、突如、新型コロナウイルスという不穏な存在によって奪われ、わずか数カ月で非日常的な光景にすり替わってしまいました。人通りが消えた都心に佇むと、「もうひとつの世界」、いわば「異界」に身を置いているような錯覚に陥ります。新型コロナウイルスが忍び込んだこの世界は様々な難題をもたらしていますが、その一方で私たちの従来の社会観、生命観などの再考を促していると言えないでしょうか。
芸術からサブカルチャーまで、異界を舞台にした表現は枚挙に暇がありませんが、異界が単なる驚異に留まらず、根源的なメッセージを伝えてくれる作品も少なくありません。そういう優れた作品における異界は、日常や現実世界に対する批評的なメタファーとして表されているのではないでしょうか。
例えば､ソ連の偉大な映画監督アンドレイ･タルコフスキーは､哲学的な SF 映画を 2 本制作しています。『惑星ソラリス』(1972 年､原作:スタニスワフ･レム)と､『ストーカー』(1979 年､原作：ストルガツキー兄弟）です。どちらも日常の外にある特異な場所、即ち異界を巡り映画が展開します。『惑星ソラリス』は惑星を覆うプラズマ状の海が知能を持ち、その軌道上にある宇宙ステーションの人間の潜在意識や過去の記憶を実体化していくという内容です。『ストーカー』は不可解な惨事が起こり、軍隊すら帰還できなかった「ゾーン」と称される謎のエリアが舞台になっており、そこに存在する、望みが叶うという「部屋」への侵入を試みる物語です。詳細は映画をご覧いただきたいのですが、両作品とも異界自体の驚異を示すのではなく、むしろ異界との接触で生起する、人間の実存性の揺らぎや現実世界に対する内省が主題になっています。
美術における異界／異形の表現についても、同様のことがいえるでしょう。例えば異界／異形を描くシュルレアリスムの画家は、単に意外性や幻想を表すのではなく、理性に拘束され疲弊した現実を解放し、人間にとっての真の現実を取り戻すことを模索しました。犬をモチーフとした吉野辰海の異形の彫刻も、決して奇をてらった表現を目論んだわけではありません。胴体が捻じれ頭部が双頭に分裂する犬の造形には、戦時中に飼犬と過ごした幼少期の記憶から万物に宿る螺旋構造への深い関心まで、作者の現実に対する様々な洞察が見事に結実しているのです。

吉野辰海《双頭犬》1987 年

異界／異形は現実との関連が生じることで、人間自身の立ち位置を相対化していくようなコスモロジーを形成すると私は考えています。それは、新型コロナウイルスがもたらしたもうひとつの世界によって、私たちのこれまでの生き方が否応なしに相対化されていく状況に似ているように見えます。当館再開に向けて、MOMAS コレクション第 2 期の「異界／異形のコスモロジー」が開催できるか調整中ですが、展示構成を練りつつ現在の社会状況との関係について思案せざるを得ない心境です。(H.I.)

ミュージアム・ショップおすすめ商品

埼玉県産の露地野菜を使って作られたカラフルなピクルスが、マルシェ　ド　ミユキから届きました。
この『花咲く！ピクルス』は、妻沼産のネギをはじめ、畑からこだわって作った旬の野菜から、一つ一つ丁寧に手作りされています。りんご酢や昆布だしなどでベースを変えて、素材とピクルス液の組み合わせも変えているそうです。味の違いも楽しいですが、見た目でも楽しめます。美しい小瓶の中に見えるのは、小さく型抜きされたバンビや蝶たち！食卓が華やかになりそうですね。(S.K.)

花咲く！ピクルス　¥750(税別)

編集後記

緊急事態宣言に伴う臨時休館が続き、当館でも展覧会や関連事業を再編成しています。残念ながら中止にせざるを得ない事業もありますが、延期が可能なものは実現に向けて調整中です。(H.I.)
今回から編集を担当することになりました。読者の皆様の期待に応えられるような紙面になるよう努力したいと思います。(M.H.)

埼玉県立近代美術館 The Museum of Modern Art, Saitama
所在地・〒330-0061 埼玉県さいたま市浦和区常盤9-30-1
TEL・048-824-0111　**FAX**・048-824-0119　**URL**・https://pref.spec.ed.jp/momas/
代表メール・p240111@pref.saitama.lg.jp
開館時間・10:00～17:30（展示室への入場は17:00まで）
休館日・月曜日、6/23(火)　**入館料**・無料　**観覧料**・上記をご覧ください。
交通・JR京浜東北線 北浦和駅西口より徒歩3分（北浦和公園内）。JR東京駅、新宿駅から北浦和駅まで、それぞれ約35分。
※当館に来館者専用の駐車場はありませんが、提携駐車場「三井のリパーク 埼玉県立近代美術館東」では駐車料金の割引があります（企画展観覧で300円引き、MOMASコレクション観覧で100円引き）。
団体バスは事前にご相談ください。お体の不自由な方のご来館には業務用駐車場を提供いたしますが、台数に限りがありますので予めご了承ください。

©埼玉県2005

発行・埼玉県立近代美術館　**編集**・平野到・真中博行　**原稿執筆**・(G.R.) 五味良子 / (O.I.) 大浦周 / (Y.R.) 矢嶋梨恵 / (H.I.) 平野到 / (S.K.) 曽根久美子